

令和5年度地域学校協働活動事業 目標と達成度

課題の類型1	課題の類型2	課題の詳細	左記課題の解決のために本事業で取り組むこと	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	学校行事の準備や雑務等に追われ、子どもに向き合う時間が十分に確保できない。	現在4小学校に8名の地域学校協働活動推進員を配置しているが、さらに4小学校と3中学校に推進員を配置し、学校のニーズに応じて、地域ボランティアを募り、実際に活動する。推進員は学校と地域の連絡調整等を担い、教員の業務負担を測る。	免許を有する教員でなくてもできる作業等を地域ボランティアの方に行っていただくことにより、本来の業務に専念できるようにし、教員の業務負担感が軽減される。	アンケートにより、実際に負担感が減少したと回答する教職員の割合	80	%	90	95	4 特に小学校においては、書初め作品の掲示やミシンボランティアなどの支援や、健康診断や入学説明会等の学校行事の補助などで大いに負担が軽減されたという回答が多かった。
①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	地域の歴史的文化的財や地域の特性を知らない児童生徒が多く、地域の一員としての自覚に乏しい。	モデル校においては、推進員が仲介役となり、地域の歴史研究グループや地元商店街等との連絡調整等を担い、児童生徒の学びの場を提供する。	地域の文化的価値や特性を知ることにより、児童の地域の一員としての自覚が高まる。	新たな地域教材の活用回数	8	事業	12	12	3 地域住民が講師となって、地元にある国の天然記念物や郷土の偉人、郷土の歴史などの学習を計画通り実施することができた。
②学校と地域の課題	青少年の健全育成	地域防災や地域公民館行事等に参加する中学生ボランティアは、学校が窓口として対応しており、地域との結びつきが弱い。また、対応する担当教員の時間外勤務の負担も大きい。	3中学校に配置した推進員が学校と地域の窓口となることで、中学生ボランティアの募集や当日の対応などを地域住民によって行うようにする。	・中学生ボランティアの対応を地域住民が行うことで、生徒たちと地域の結びつきが強まると同時に、生徒の地域の一員としての自覚が高まる。 ・担当教員の時間外勤務の負担も軽減できる。	地域ボランティアに係る休日の時間外勤務の日数	105	日	50	50	3 中学生ボランティアの対応について、半数の活動は、推進員を中心に地域住民におかませることができた。今後は、活動のさらなる定着を図り、教員の負担軽減を目指したい。
③学校と家庭の課題	放課後等における多様な体験活動	新型コロナウイルスの影響等による地域行事の減少や子ども会の活動休止などにより、地域の交流が減少しており、地域の一員としての認識が希薄化している。	放課後子ども教室において、地域住民等の参画を得て、スポーツや工作、自然体験などの「体験教室」を開催する。	地域住民との交流により、児童自身も地域の一員という自覚を持つ。また、体験的な学びを行うことで、児童の自立性や協調性、探求力を養う。	体験教室の延べ参加児童数	3627	人	4500	4900	3 ・市内全小学校15校で「体験教室」を月1回程度行い、児童自身が地域の一員としての自覚を持つことや、自立性や協調性、探求力を養うことに貢献した。 ・今後は多様な交流のため、児童クラブとの体験教室の合同開催を増やしていきたい。